

「食堂棟（福祉避難所）お披露目会」を行いました

本校の食堂棟が、3月28日に完成したことを祝って、12月15日（金）にお披露目会を行いました。食堂棟の1階の食堂には、全学級の給食と176人分の机と椅子が設置されており、日頃は食堂から離れた位置に教室がある中学部・高等部の生徒と教職員が利用しています。2階には、24家族程度の居住スペースを用意できる福祉避難所と災害時の非常食を保管する備蓄倉庫があります。備蓄倉庫には、福祉避難所用品（水とテント、パーティション、居住スペース等）と児童生徒教職員用品（非常食、毛布、便袋、水等）が収納されています。

災害発生後、自宅からの避難が必要な人たちが一時的に生活の場を確保するために地域の避難所で生活を行いますが、その一般的な避難所での生活に支障がある高齢者や障害のある人たちは、特別な配慮がされた施設である「福祉避難所」に移ることができます。本校は、平成25年4月に南国市、大豊町、香美市、南国市の知的障害及び発達障害がある人のための「広域福祉避難所」として指定を受けました。そのため、発災後、本校の施設設備が被災者を受け入れることが可能な状況であれば、高知県中央東福祉保健所に申し出ることになっています。学校は4市町から知的障害及び発達障害がある人で福祉避難所での生活が望ましいと申し出のあった人たちを受け入れていきます。その主な避難場所は体育館ですが、このたびの食堂棟の完成により、多目的ホールも避難場所として活用できることになりました。

お披露目会には、来賓者28名（福祉避難所関係者、教育後援会理事、地域住民、小学校の特別支援学級保護者、本校保護者）の方々の参加がありました。お披露目会は、地域の人々に本校が福祉避難所であることを知っていただくことと、本校が避難所になったときの児童生徒、教職員の役割を理解することを目的に取り組みました。

セレモニー



体育館前の受付では、来賓の皆様を迎え、記念品（紅白もち、しおり）を手渡ししたり、スリッパのはき替え、校長室への案内等、小学部児童会、高等部生徒会の児童生徒が積極的に来賓者に声を掛け案内をすることができました。

生徒会の司会進行で始まったセレモニーは、中学部3年生の太鼓演奏で幕をあげました。3年生は全校生徒の前に立ち、凛とした姿勢で太鼓の演奏に臨みました。演奏曲は、何度も練習した「情熱大陸」です。息の合った太鼓の響きや掛け声が、体育館いっぱいに広がり、演奏が終わると、客席からの拍手に3年生全員の表情に安堵感と満足した笑みがこぼれました。田中校長から

は、食堂棟の完成や福祉避難所の機能、本校の児童生徒、教職員が果たす役割などの話がありました。池添教頭は、スライドを使って児童生徒に災害時に本校が福祉避難所になることの意味を伝えました。最後に生徒会から食堂棟の紹介を行い、セレモニーを終了しました。



来賓者に、「食堂は、こちらですよ。まっすぐ進んでください。」と、生徒が廊下に立って案内をしました。

炊き出し・試食



食堂では、高等部の生徒が炊いた炊き込みごはんと温かいお茶で、来賓者をもてなしました。団体でやって来た、来賓者に圧倒された高等部の生徒たちでしたが、来賓者に炊き込みごはんを手渡して、席に案内すると、ほっとした表情になる生徒もいて、初めての取組に緊張した子どもたちの気持ちが伝わってきました。「炊き込みごはんが、おいしかったよ。」「ありがとう。」と、声を掛けられ、大役を果たした子どもたちの表情がゆるみました。

福祉避難所見学



2階の多目的ホールには、小学部が制作した「つなみまん」「ゆうどうくん」「かじまん」が来賓者を迎えました。福祉避難所をイメージしてもらうために、テント4張り（4人用のプライベートルーム）、区分けされた居住スペース（4人用）を設置したほか、防災用品、防災教育のために学級で独自に作製した防災頭巾や防災紙芝居などを展示しました。高等部の生徒たちも、興味をもって、案内役を務めることができました。児童生徒も、学級ごとに見学し、テントに入ったり、居住スペースで寝転がったりして雰囲気を楽しみました。災害時に慌てることなく、日頃から試して、触れて馴染んでおくことも必要なことだと感じました。来賓者には整備中の備蓄倉庫も見えていただき、スペースの広さ、物品の整理、保管状況などについて様々なご意見、ご感想をいただきました。

ご参加いただいた来賓の皆様、ありがとうございました。